

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	S.Y	学部・学科	国際商学部
学 年	2	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティ大学		
コース名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 17 日～ 2026 年 9 月 11 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業はスピーキングを中心に、生徒同士のコミュニケーションを最優先としていた。文法や単語の暗記にとどまらず、教わった表現をその場で実践するペアワークやグループディスカッションが多く取り入れられた。また、アイルランドの歴史、スポーツや音楽など伝統文化に関するレクチャーも受け、現地での生活に必要な知識も学ぶことができた。さらに、イギリス英語とアメリカ英語の違いについて具体的な例を挙げながら学ぶことができた。日々の課題としては、その日に学んだ文法事項の復習・ショートエッセイの執筆や翌日のプレゼンテーションに向けた事前リサーチが課された。演習では、生徒同士とチームを組み、特定トピックに対する意見交換を目指すグループワークを中心に実施された。また、ペアワークでプレゼンテーションを制作・発表する機会もあった。印象に残った授業としては、自分の持ち物の中から一つ選び、その嫌いな点を発表することであった。表現が難しく、とても難しかったからである。授業で知識を得て課題で深め、演習で実践するというサイクルを通じ、英語での発信力と異文化適応力を多角的に高めることができた

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

DCU での 1 ヶ月間の授業を通して、言語面・文化面の両において多角的な知識と知見を得ることができた。まず言語面では、単に単語や文法を覚えるだけでなく、実際のコミュニケーション内で自然に使われる口語表現やイディオムを学んだ。また、プレゼンテーション授業を通じて、自分の考えを論理的に構成し、聞き手にわかりやすく伝えるためのスピーチ構造やアクセントのポイントについての知識を得ることができた。次に地域・文化理解の面では、アイルランドの歴史や伝統文化、現代社会が抱える課題について知識を深めた。ゲールフットボールやアイリッシュ音楽といった文化の理解に加え、現地の人々の価値観やフレンドリーなコミュニケーションに触れることで、地域に対する理解が向上した。全員が日本人学生という環境下でも、互いに英語での積極的な議論やフィードバックを重ねることで、英語を実践的に活用する技術と自信を得ることができた。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、自分の英語力に対する不安や間違えるかもしれないという遠慮があり、発言に対して消極的だった。特に全員が日本人学生という環境では、どこまで積極的なのかと探る部分もあった。しかし、実際に授業が始まると、生徒全員が積極的に英語を使用していることもあり、大事なのは完璧な英語を話すことではなく、拙くても意思を伝えようとする姿勢だと感じた。発言を重ねる中で、周囲も互いに高め合える雰囲気生まれ、失敗に対する抵抗感がなくなっていく。受講後は、完璧に話すという考えから積極的に伝えてみるという前向きなマインドへと変化した。完璧さにこだわのをやめたことにより英語話すこと自体を楽しめるようになり、今後の語学学習や実践に対する大きな自信と意欲を得ることができた。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

現地でのフィールドワークや生活を通じ、拙い英語でも意思疎通は可能であり、海外の方との交流の楽しさを実感した。この経験から、英語は単なる勉強科目ではなく世界を広げるツールだと再認識した。今後は、この楽しさと経験をもとに、学業において英語論文の読解や専門的な議論にも積極的に挑戦し、実用的な語学力と国際的な視野を高めていきたい。さらに、大学での学びにおいても多角的な視点を持って深く取り組み、将来的にはグローバルな環境や多様な人々と協力する場面でこの経験を生かしたい。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	M.S	学部・学科	国際教養学部国際教養学科
学 年	1	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティ大学		
コース名	夏季短期語学研修		
期 間	2026 年 8 月 15 日～2026 年 9 月 14 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

かなり教師やクラスのレベルによって変わった。1 週目は中級クラスに配属された。中級クラスでの授業では中学文法(仮定法や助動詞など)をゲームや会話練習を行いながら学んだ。教科書中心と言うよりもゲームやペアワーク、グループワークが中心だった。また、課題は比較的簡単なものが多く、授業内で習った文法を教科書後半のまとめのページが宿題として出された。しかし、クラス全員日本人であったことや、授業内容、さらに授業中にかなりの頻度で日本語を用いたり、ペアワークの際も単語だけでなんとか会話をしていたりしたこと、自分の英語力を伸ばす適切な環境ではないと感じ、レベルアップの申請を行った。2 週目の水曜日から中上級クラスとなった。2 週目のクラスでは教科書に沿った内容を演習し、ライティングやボキャブラリーがメインの演習であった。このクラスでの課題は 1 週目のクラスと同じような日もあれば、しっかりエッセイを書く日もあった。3 週目、4 週目のクラスでは同じレベルだが教師が代わり、会話がメインの授業に変わった。今までのクラスではわからない単語があったらスマホで調べても聞いてもよかったが、このクラスでは B2 レベルはスマホからの独立をしているクラスだと説明され、スマホの使用が禁止された。わからない言葉(日本語→英語)があったら教員に英語でその言葉の定義を説明する必要があった。椅子や窓、壁など身近なものを英語で定義づけられるようになること、また、自分の学部や趣味など自分に関することをスムーズに説明できるようになること、旅の動機や思い出、感想などを英語で正確に説明できるようになる事などを求められた。特に状況や心情を説明する時に nice/good/bad/so so などの簡単に抽象的な言葉ではなく、amazing/awesome/terrible などの単語を用いた具体的な説明をするように求められた。毎日授業開始後 25 分程度はお互いフリートーク時間を設けられ放課後のことや日本での生活を話していた。クラスのレベルを変えたことや、教師が決められていたシラバスとは異なる順序で授業を進めた週もあったため、4 週間通して文法は zero, first, second, third conditional のみ学んだ。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

私は、今回の授業を通して、特に辞書やスマホに頼らない英語学習の大切さを学んだ。普段なら自分が説明できない物、例えば場所やあまり知られていない日本料理などを説明する時に画像を見せて説明していた。しかし、これはスマホからの独立にはならず、英語学習には効果的でないことを学んだ。効率的に英語を学ぶためには画像を見せず、どう伝えたら分かりやすいかを試行錯誤しながら会話をしていくことの大切さを教わった。さらに、自分とは違うノンネイティブの国籍との会話の難しさも学んだ。日本人同士であれば、単語を並べてるだけであったり、文法や単語が適切でなかったとしてもある程度意思疎通は可能であり、会話もできる。しかし、異なる国籍の人と会話すると、そもそも英語のアクセントや癖が違ったり、母語の影響でより困難に感じ、お互い適切な文法と単語を選択する必要があるように思えた。その時の解決方法として、先生から自分が伝えたいことをシンプルに伝えることを教わった。アカデミックライティングのようにわざわざ複雑な単語や文構造を用いるのではなく、なるべく単純な文法を正確に使用することで自分も相手も分かりやすくなるということを学んだ。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は英語で会話をする際、正しい文法や難しい単語を使って話すことが重要だと考えていた。そのため、自分が言いたいことを英語でうまく表現できないと英語力が不足していると感じてしまうことが多かった。しかし、特に 3、4 週目の授業を通して、英語でコミュニケーションを取る上では、必ずしも難しい表現を使う必要はなく、自分の知っている単語や文法を使って相手に分かりやすく伝えることが重要だと考えるようになった。また、アイルランドで実際に生活する中でも自分の言いたいことが思うように伝わらなかったり、相手の英語を聞き取れなかったりする経験があった。その経験から、英語を正しく話すことだけではなく、相手と意思疎通するために使うことの難しさと重要性を実感した。一方で、完璧な英語でなくても言い方を変えたり、知っている別の単語を使ったりすることで伝えられることも学んだ。そのため、授業後は英語を話すことに対する苦手意識が以前よりも小さくなり分らないことがあっても自分の力で伝えようとする意識が強くなった。

(4) 今後はどう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

2 年次もしくは 3 年次に大学の長期交換留学に参加したいと考えている。そのため、IELTS のスコアを最低でも 6.0 から 6.5 を取得する必要がある。今回のアイルランドでの英語を思った通りに伝えられなかった経験などをモチベーションにして勉強を進めていきたい。また、英語を学習する際、AI やスマホに頼るのではなく自力で伝えられるようになるために語彙力にも磨きをかけていきたい。このことは英語だけでなく現在学習している中国語やこれから学習したいと考えている他の言語にも通ずることだと感じるため「スマホに頼らない学習」を軸に学習を進めていきたいと考える。

YCU 夏季短期語学研修 派遣学生報告書

氏 名	S.M	学部・学科	国際商学部・国際商学科
学 年	2 年	派遣国	アイルランド
派遣大学	ダブリンシティユニバーシティ		
コース名	語学研修		
期 間	2026 年 8 月 15 日～ 2026 年 9 月 14 日		

(1) 授業や課題、演習はどのような内容であったか。(800 字程度)

(可能な限り具体的に、印象に残った授業などの説明があるとよい)

授業は四週間分あった。私の場合、先生が何度も変わった。そして、先生によって授業スタイルがまったく違った。

一週間目は、月・火・水が Erin で木・金は Daniel が担当してくれた。Erin はスピーキングが中心だった。分法や長文を進めながらも、単元に関連した内容でペアワークやグループワークを行うことが多かった。授業の最後には、学んだ文法をクイズにした「Kahoot!」を行った。三位までに入るとステッカーがもらえたので、教室中に緊張感が走り、皆夢中になってゲームをした。スピード感が試されるので、速読の練習にもつながった。これに対し Daniel は、スピーキングよりもテキストの流れに沿って文法や長文、ライティングを行った。授業ではホワイトボードが使われ、生徒の発言をネイティブがよく使う表現に言い換え、それを書いて教えてくれた。どちらの先生も、宿題はライティングだった。

二週間目は、変わらず Lucy が教えてくれた。テキストを進めながら、スピーキングも行った。特に印象に残ったスピーキングは、即興プレゼンテーションだ。お題は、「足相撲」のようにクリエイティブなスポーツをグループで発明することだった。ここで学べたことは、人前で話す緊張感と説明する力だ。これは、椅子に座って英語を学ぶだけでは味わえないものなので、普段とは違ったスピーキングの練習になった。文法では、現在完了形・過去完了形を学んでいたため、テキスト以外のプリントも追加で演習を行った。そのため、宿題もプリントされた文法がメインだった。

3, 4 週間目は Tanja が続けて教えてくれた。Tanja は今までの先生の中で一番スピーキングを中心とした授業だった。例えば、「映画」が学びのテーマだったとき、ペアで「映画は好きかどうか」などの簡単なスピーキングをした後、全体でみんなの意見を聞いたり、話したりした。また、テキストのアクティビティにはないものをしばしばやった。例えば、Tanja が好きな曲を聞きながら、聞き取れた歌詞を穴埋めするリスニング練習をした。

これらの授業は、日本人がほとんどだった。たまに一人多国籍の子がいた。そのような環境でもしっかり英語学習ができた。また、グループは先生が決めた。近くの人とペアになったり、コンピュータでランダムに決められたりした。

(2) 授業を受けてどのような知識等が得られたか。(500 字程度)

新しい英語の学習方法が学べた。

授業では、単語の意味を聞かれることがたくさんあった。似た言葉で表現することにより、英語を英語のまま理解できるようになった。これはかなり良い勉強法ではないかと思う。似た表現や簡単に言い表す練習は、スピーキングの練習にもなるし、をネイティブと同じ認識で意味を理解できるようになるからだ。

宿題では「Ted ed」を見て先生が出した質問に答えるものが出た。Ted ed は教育・学習的な内容を YouTube で見ることができるので、どこでも手軽に英語学習ができ、アカデミックな内容が学べる。ウェブサイトには、動画に関連した writing Question があるので、ライティングの練習も同時にできる。

発音の大切さについても学んだ。日本人はよく city を sity と発音してしまう。第二言語は母国語と違った舌や口の使い方をするので、完璧な発音は難しい。しかし、beach のように伸ばす音を入れなければ、bitch と聞こえてしまうので、発音記号を学ぶ必要があると感じた。また、発音だけでなくアクセントも大切だった。Award のアクセントは日本と英語では違うため、そのようなところも注意が必要だと分かった。

(3) 授業を受ける前・受けた後でどのように（気持ちなどが）変化したか。(400 字程度)

授業を受ける前は、周りとは比べず自分のペースで頑張ろうという意識でいた。授業を受けていく中でその意識が変わった。授業で積極的に発言するサウジアラビアからの生徒がいた。先生に質問を投げかけられたときに私もアイディアがあったが、先に言われてしまうことがしばしばあった。それがとても悔しかったため、スピード感を意識するようになった。そのため、授業によりのめりこむようになったり、先生がここを聞いてくるのではないかと先回りして考えたりするようになった。

その後、サウジアラビアからの生徒が帰ると、日本人だけのクラスになり、発言する人がいなくなった。そこでたくさん発言する機会を得られた。たまに先生の言ったことが分からず、シーンと静まり返るときがあったが、そこで「こう思いましたが、あっていますか？」と聞くことで認識を一致させることができた。ここで、間違いを恐れず発言することで、意外と正解しているときがある。またさらに良いのが、いざ間違ったときにより深い理解を得ることができるということだ。

(4) 今後どう生かしていくか。どのように学業を進めていくか。(300 字程度)

今回の留学では、午後に毎日観光をした。そのため、アイルランドの文化や美しい自然・建物などを見ることができた。日本とは景色や人の雰囲気が全く違い、毎日感動だらけだった。また、日本にいたときは、休みの日はしっかり休もうと思っており、家にいることが多かったが、行こうと思えばどこにだって行くことができると分かったので、他の国だけでなく、日本のまだ行ったことのない場所に行き、新しい世界を見て、体験したいという気持ちが強くなった。これらの体験は学業に通じると感じる。

また、今回は英語力を国内で一人の力でも伸ばす方法を知ることができたので、継続して英語の勉強に励みたいと感じる。スピーキングは、とにかく話せば話すほど上がっていくので、筋トレのように毎日取り組んでいきたい。

